

中学校 聖書科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

同志社の建学の精神であるキリスト教主義と創立者新島襄の思想を学び、キリスト教主義による世界観・人間観・生命観を基礎にしなが、創立者の言葉「良心の全身に充満した丈夫（ますらお：若者）」として成長することを目指す。

そのために3年間を通して、創立者の生涯、聖書とイエス・キリストについて、現代社会の諸問題と関連付けながら学ぶ。それにより、一人一人の個性と尊厳を大切にしながら、自分も他者も愛し、日々の生活を喜びあるものにする力を養成する。

第1学年 聖書 (週1時間)	教科書	なし
	副教材	新島襄への扉編集委員会編『新島襄への扉-真誠の自由を求めて』 富田正樹『キリスト教資料集』 富田正樹『信じる気持ち』 以上、日本キリスト教団出版局 『聖書 新共同訳』日本聖書協会

学習到達目標

創立者・新島襄の生涯と同志社創立の経緯の主な出来事、キリスト教についての基礎知識を、同志社人の「入門」として学ぶ。3年ないし6年を同志社で学ぶにあたり、何を大切にして学校生活を送るか、どのような成長を目指すか、それぞれに模索する機会とする。また、創立者と学校の歴史や、キリスト教精神を通して、これからの人生を生きてゆくためのものの考え方の基礎を育成する。それらを、一つの正解を強要するのではなく、生徒個人個人の自由な意見を尊重しながら引き出すことを目標とする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	創立者や学校の歴史、キリスト教についての知識を身に付け、それを自分の問題として考えることができる。	創立者や学校の歴史、キリスト教の教えを通して自分自身について深く考え、これからの自分の生き方に引き付けた上で、意見や問いを分かりやすく他者と共有することができる。	創立者や学校の歴史、キリスト教に対して深く関心を寄せ、それらを通じて自分のこれからの人生や学校生活に活かそうとすることができる。

学習方法

教科書に従って、新島襄の生涯と同志社創立の経緯を学んでいく。単に歴史的な知識として学ぶだけでなく、自らの生き方を重ねて考える機会となるように授業を進める。また、初めてのキリスト教の礼拝を経験する生徒の為に、賛美歌の練習や主の祈りの暗誦、自分でお祈りを作ってみるなどの作業も経験する。

期末考査による評価に加え、キリスト教会の礼拝に参加して報告する「教会探検隊」(教会レポート)、自由提出で学校礼拝の感想を書く「礼拝レポート」など、多面的に評価する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

(週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 導入：学校礼拝入門	1. 学校礼拝・礼拝堂への関心を高める。 2. 聖書・賛美歌・祈り・教会といったキリスト教の基礎を理解する。 3. 礼儀と敬意を払う態度を身につける。	【評価の観点】 ・創立者や学校の歴史、キリスト教への関心・意欲・態度 ・創立者、同志社、キリスト教についての最低限の

	2. 創立者の精神を学ぶ①	1. 新島襄の誕生・幼年時代 2. 少年時代 3. 青年時代 4. 函館時代	知識 ・教科書から読み取る力 ・自分なりの問いを見付けだす力 ・学習内容を通じて自分自身を見つめる 【評価方法】 1, 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解を深めることができたかを問う。 2, 平常点 (1)授業への関心・態度 (2)課題などの提出状況 (3)教会探検隊、礼拝レポート
2 学期	3. 創立者の精神を学ぶ②	5. 洋上生活 6. ボストン上陸 7. フィリップス・アカデミー時代 8. アーモスト大学時代 9. アンダーヴァ神学校時代 10. 宣教師として日本へ	
3 学期	4. 創立者の精神を学ぶ③	11. 帰国・学校設立に向けて 12. 同志社英学校開校 13. 同志社女学校開校 14. 熊本バンド 15. 晩年・永眠	

第2学年	教科書	なし
聖書 (週1時間)	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会 富田正樹『キリスト教資料集』日本キリスト教団出版局

学習到達目標

建学の精神であるキリスト教の正典である新旧2つの聖書のうち、旧約聖書の全体的な流れを理解し、基礎的な知識を学ぶことと、登場人物の言動を通して自分を見つめることを目標とする。

特にこの旧約聖書は、キリスト教だけではなくユダヤ教の正典でもあり、イスラームにも大きな影響を与えている、世界の人類に最も広範囲な影響を与えた書物である。その書物について学ぶことで、国際的な視野を養い、現在の世界における諸問題を歴史・宗教などの側面から深く理解し、自らの観点からの考え方を養う機会とする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	旧約聖書についての知識を身に付け、それを自分の問題として考えることができる。	聖書や礼拝メッセージを通して、自分自身と向き合って深く共感したり、想像したりする力を十分に身につけ、他者に自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる。	興味を持って聖書や礼拝に親しみ、聖書の言葉や礼拝メッセージを通して自分や社会を深く見つめることができる。またそれを日常生活に活かすことができる。

学習方法

主に旧約聖書の物語的な要素の強い、「創世記」「出エジプト記」から題材を取る。聖書そのものを読む一方で、資料集や適宜配布資料を用いながら、一つにつながったストーリーとして理解しやすい形で学習を進める。

基本的には教室での講義が中心となるが、随時必要に応じて、プリント、プレゼンなどを活用した教材を用いる。

主に期末考査によって評価する。と同時に、適宜自分の感想や自分を見つめ直す小レポートを課す。また、中学1年生で行ったのと同様、町中にある教会の礼拝を訪問して報告する「教会探検隊」(教会訪問レポート)、自由提出で学校礼拝の感想を書く「礼拝レポート」などを継続し、多面的に評価することとする。

年間シラバス (1年間の学習予定表) (週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 導入： 旧約聖書の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中には、どのような宗教があり、宗教の定義とは何かを考える。 ・同志社の根底にあるキリスト教の正典である、聖書の成り立ちや仕組みを知る。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖書への関心・意欲・態度 ・読む力 ・聖書についての最低限の知識 ・聖書の教えを通して、自分自身を見つめる <p>【評価方法】</p> <p>1, 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や、登場人物の気持ちや、神話を通して自分や隣人と向き合い、人間についての理解を深めることができたかを問う。</p> <p>2, 平常点 (1)授業への関心・態度 (2)課題などの提出状況 (3)教会探検隊、礼拝レポート</p>
	2. 創世記の神話の物語 (前編：原初史)	<ul style="list-style-type: none"> ・「天地創造」「アダムとエバ」「カインとアベル」「ノアの箱船」の神話を読み、言葉の力を感じたり、登場人物と自分や自分の隣人との関係を照らし合わせたりしながら、人間観を深めてゆく。 	
2 学期	3. 創世記の神話の物語 (後編：族長物語)	<ul style="list-style-type: none"> ・アブラハムから続く古代のイスラエル民族の歴史に親しむ。 ・族長物語をドラマとして楽しむと同時に、登場人物を参考にしながら、自分の生き方や社会のあり方についての考察を深める。 	
3 学期	4. 出エジプト記の物語 (モーセ物語)	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラエル民族がエジプトでどのような立場に置かれていたのかを歴史的に知る。 ・モーセ物語をドラマとして楽しむと同時に、登場人物を参考にしながら、自分の生き方や社会のあり方、宗教のあり方についての考察を深める。 ・「十戒」に込められた神の意図を考える。 ・モーセの人生を通して、「信仰」について考える。 	

第3学年 聖書 (週1時間)	教科書	なし
	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会 富田正樹『キリスト教資料集』 日本キリスト教団出版局

学習到達目標

キリスト教の正典の1つである新約聖書の全体的な流れを理解し、基礎的な知識を学ぶ。

新約聖書は、キリスト教徒のみならず、世界中の文化にも大きな影響を与えているイエス・キリストの生涯と言葉を収めている。そのような書物について学ぶ事で、現在の世界における諸問題を深く理解すると共に、イエスからの問いかけを自分なりに受け止め、自らの生き方を考える機会とする。

この授業により、同志社の建学の精神についての3年間のごく基礎的な学習が完結する。

学習方法

新約聖書の中でも、特に「福音書」を通し、もっぱらイエス・キリストについて学ぶ。聖書そのものを読む一方で、資料集や適宜配布資料を用いながら、キリストの誕生・生涯・死・復活を、一つにつながったストーリーとして理解しやすい形で学習を進める。

基本的には教室での講義が中心となるが、随時必要に応じて、プリント、プレゼンなどを活用した教材を用いる。

主に期末考査によって評価する。と同時に、適宜自分の感想や自分を見つめ直す小レポートを課す。また、中学1年生で行ったのと同様、町中にある教会の礼拝を訪問して報告する「教会探検隊」(教会訪問レポート)、自由提出で学校礼拝の感想を書く「礼拝レポート」などを継続し、多面的に評価することとする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	新約聖書についての知識を身に付け、それを自分の問題として考えることができる。	聖書や礼拝メッセージを通して、自分自身と向き合って深く共感したり、想像したりする力を十分に身につけ、他者に自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる。	興味を持って聖書や礼拝に親しみ、聖書の言葉や礼拝メッセージを通して自分や社会を深く見つめることができる。またそれを日常生活に活かすことができる。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

(週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 導入：新約聖書の世界 2. イエスの宣教活動	<ul style="list-style-type: none"> 旧約聖書と新約聖書のつながりを知る。 新約聖書の区分・目次と概要を知る。 イエスの誕生(クリスマス物語)を読む。 洗礼者ヨハネによる洗礼物語を読み、イエスの公生涯の始まりについて知る。 荒野での誘惑と弟子の選びを通して、人生を変える出会いについて考える。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 聖書への関心・意欲・態度 読む力 聖書についての最低限の知識 聖書の教えを通して、自分自身を見つめる
2 学期	3. イエスの教え	<ul style="list-style-type: none"> イエスの行った奇跡の物語(病気治し、5000人の給食など)を読み、人間が求める根源的なものについて、また食することについての大切さを考える。 イエスの語った有名な言葉(山上の説教など)を読み、自分の生き方について考える。 イエスの語ったたとえ話(放蕩息子、善いサマリア人など)を読み、自分の生き方について考える。 	<p>【評価方法】</p> <p>1, 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や、登場人物の気持ちや神話を通して自分や隣人と向き合い、人間についての理解を深めることができたかを問う。</p> <p>2, 平常点 (1)授業への関心・態度 (2)課題などの提出状況 (3)教会探検隊、礼拝レポート</p>
3 学期	4. 十字架と復活	<ul style="list-style-type: none"> 最後の晩餐とゲツセマネの祈りの部分を読み、人間の運命と神とのかかわりについて考える。 イエスの十字架の死についての物語を読み、今の時代の人にも大きな影響を与えるキリストの死の意味について思いをはせる。 復活の意味を考え、イエス以後のキリスト教会についての基礎的な知識を得る。 	